



**ドイツとの自治体連携を通じた
再生可能エネルギー普及促進プロジェクト
Local government Cooperation between
Germany and Japan in Renewable Energies**

川又 孝太郎
在ドイツ日本国大使館参事官

Dr. Kotaro Kawamata
Counsellor, Embassy of Japan in Germany

18 March 2017

日独自体連携プロジェクト MOEJ project

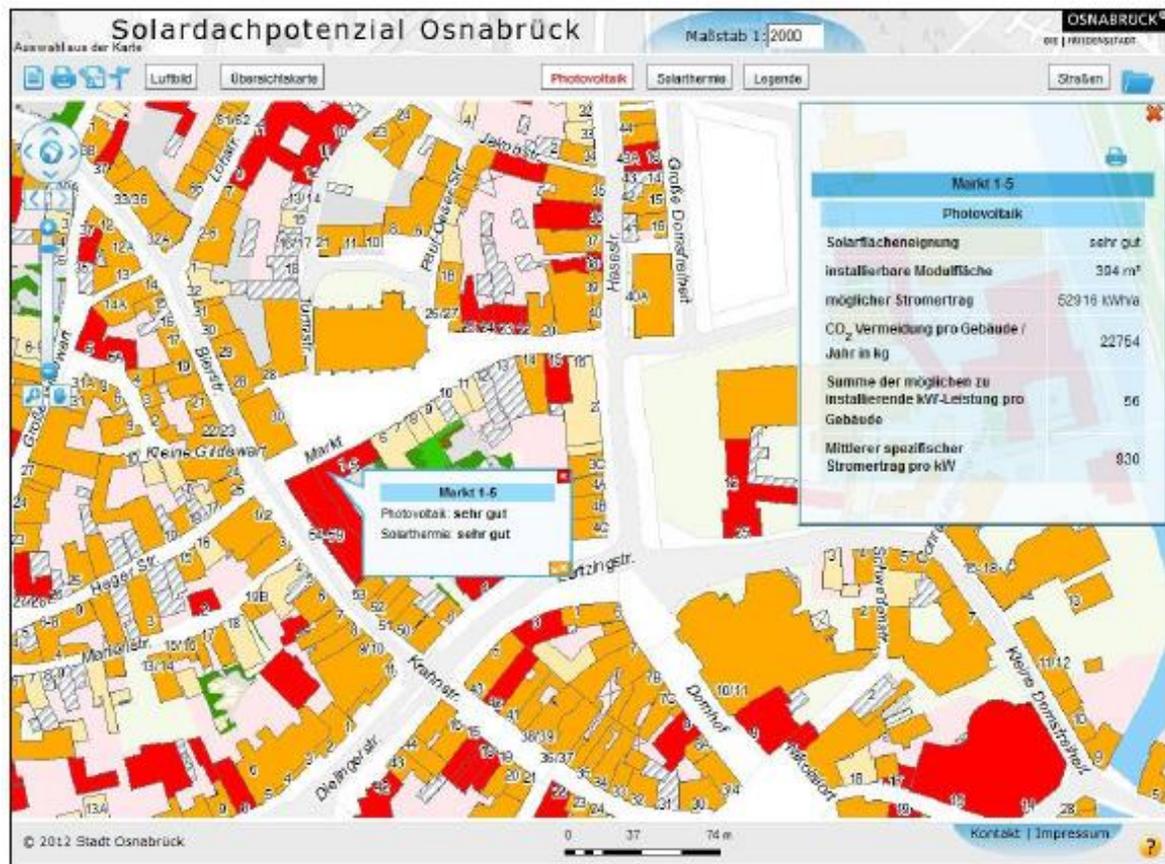
- 日独環境省間の低炭素技術協力に関する共同声明 (5月18日)
Joint statement between BMUB and MOEJ on cooperation on low carbon tech
- 「両国における地方政府の連携を支援する」
“Support collaborations between local govts in both countries”
- 日独自体連携プロジェクトの開始
Launch of German Japan cooperation project among local gov



日独自治体連携プロジェクト MOEJ Project

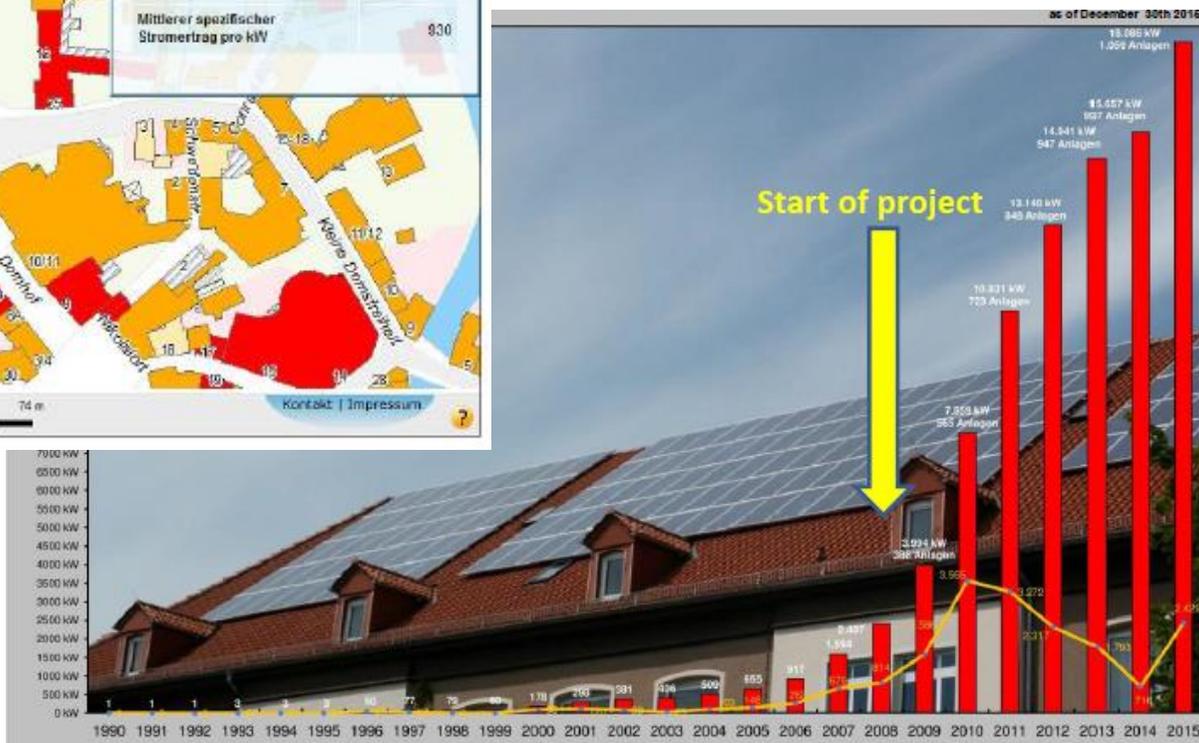
1. 自治体向けマニュアルの策定 Manual for local gov
 - 自治体の支援策、地域エネルギー会社の設立方法、市民電力の支援方法
2. ネットワーキング化 Networking
 - 再エネによる地域活性化を目指す自治体ネットワーク
 - 日本版シュタットベルケ・ネットワーク
3. 国際会議
 - 3/24 脱炭素技術フォーラム@ベルリン
 - 9/7-8 ICLEI地方再エネ会議@長野
 - 12/6-7 100%再エネ自治体ネットワーク会議@カッセル

ソーラーマッピングによる屋根置き太陽光の普及促進 ～自治体の支援策の一例～



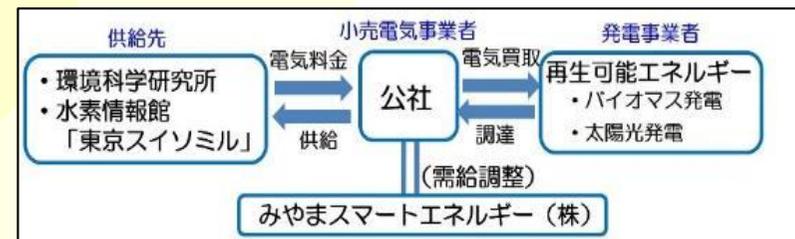
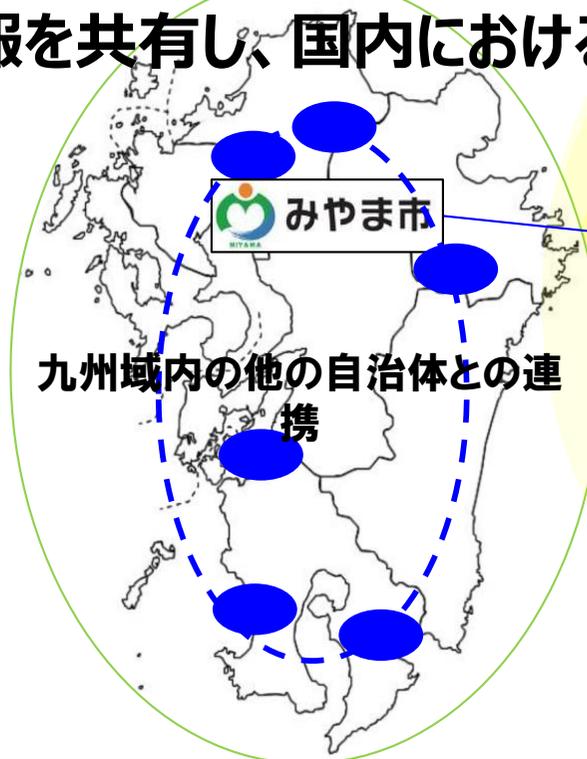
航空機による測定でオスナブルック市の全建物の太陽光パネルの適合度をウェブサイトで公開

その結果、多くの建物で太陽光パネルの導入が実現。



日本版シュタットベルケ・ネットワーク

シュタットベルケの意義、設立方法、事業展開の進め方等について情報を共有し、国内における普及を促進することが重要



※みやまスマートエネルギー(株)と(公財)東京都環境公社は、気仙沼産バイオマス電気の共同調達や電力融通を実施中。

シュタットベルケ都市連携のスタート

福岡県みやま市

鹿児島県肝付町および、4市5町 (大隅半島)
鹿児島県いちき串木野市

大分県豊後大野市
福岡県柳川市

沖縄県那覇市
兵庫県淡路市
熊本県水俣市

2017年度
30都市連携へ

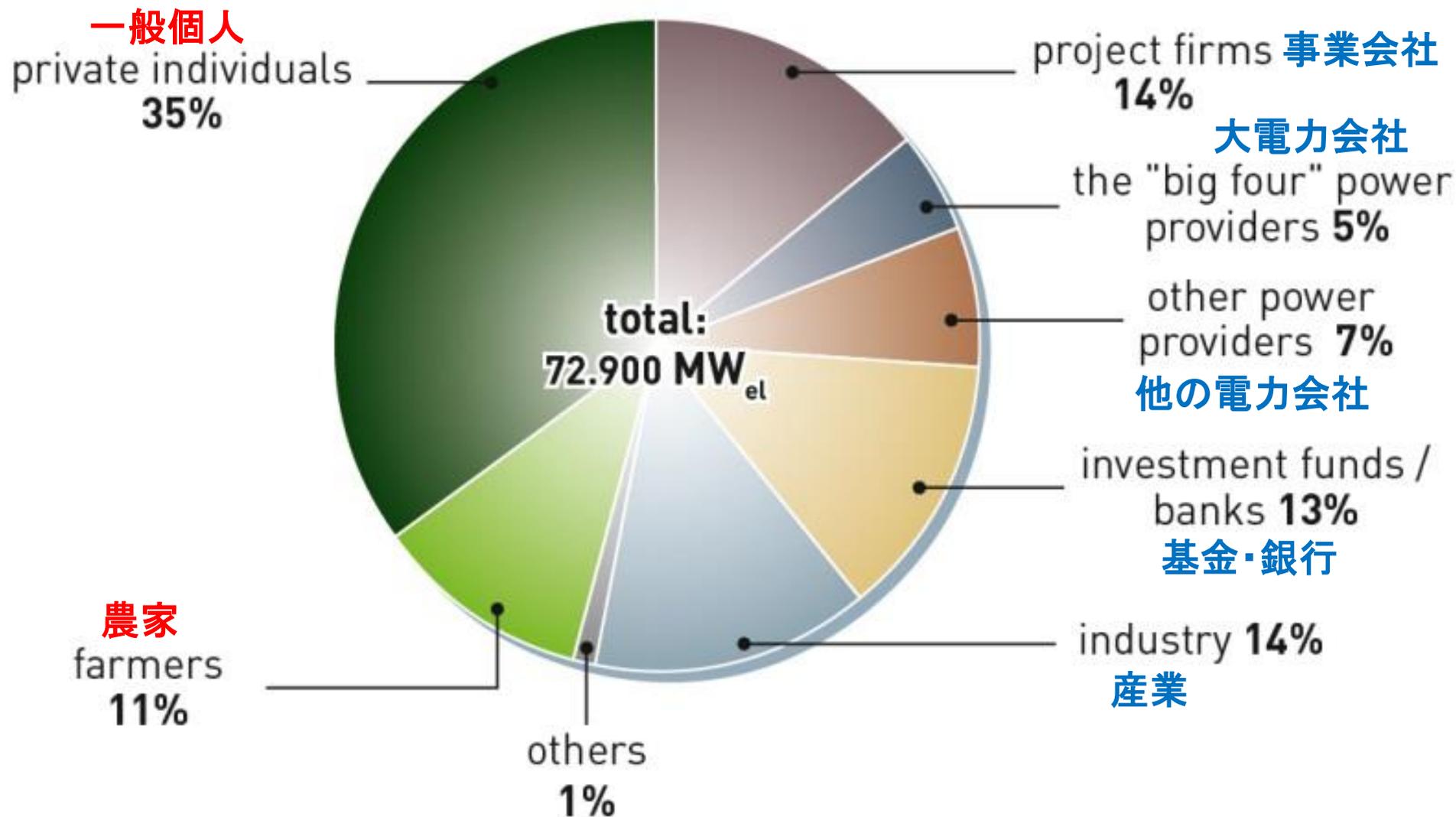
(参考資料)

Renewable energy in the hands of the people

Ownership distribution of installed RE capacity for power production

2012 throughout Germany.

再エネ設備のおよそ半分が市民による出資

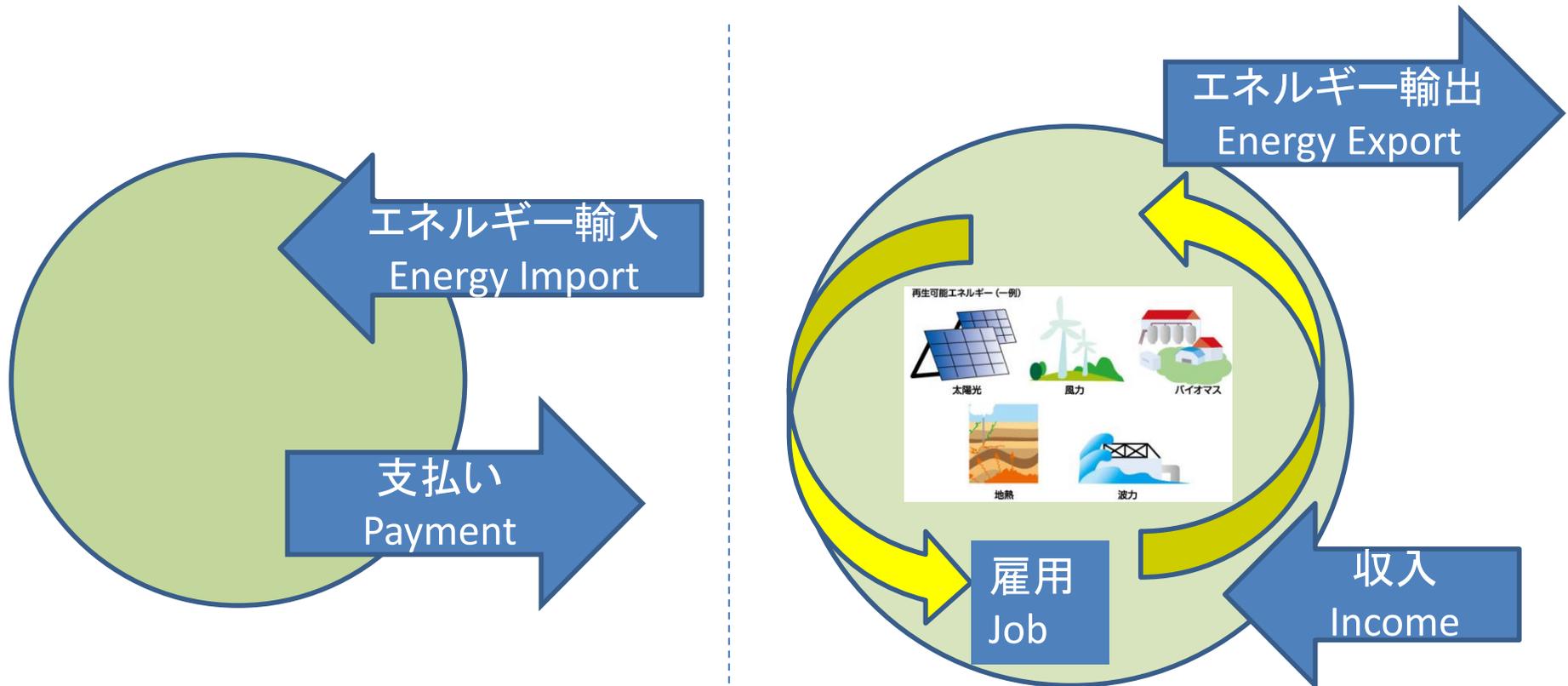


Source: trend research; as of: 04/2013

www.renewables-in-germany.de



地域経済への効果 Impact to Local Economy



現在 Now

地域でお金が回る仕組み
System to circulate money within region

将来 Future



日本版シュタットベルケ・ネットワークの設立 について

2017年2月5日

日本版シュタットベルケ・ネットワークの創設

背景:ドイツでは、自治体出資型の都市公社が、電力小売り、ガス販売等のエネルギーサービスを提供し、同サービスにより収益を活用しつつ、公共交通等の地域が抱える不採算ではあるものの公共性の高いサービスを提供し、地域経済の活性化に貢献している。

一方、我が国では、電力自由化に伴い、地方自治体が出資する電力小売り事業者が増加しつつある。それらの地域出資型の電力小売り事業者は、地域雇用の拡大等の機能が期待されており、その収益基盤を生かして、地域が抱えるその他のサービスの担い手となれる可能性を秘めている。



目的:日本版シュタットベルケの設立、展開を加速するため、日本版シュタットベルケの設立・事業展開に関心を有する自治体間の情報共有・交流、先行する事例からのノウハウの吸収、共同活動の推進、ドイツからのノウハウの移転、ドイツ・シュタットベルケとの交流等を実現するための基盤として、日本版シュタットベルケ・ネットワークを創設。

日本版シュタットベルケ・ネットワークの活動内容

1. 日本版シュタットベルケに関する情報共有・交流活動

- 講習会、ワークショップ等を通じたシュタットベルケに関する最新情報の共有
 - ドイツにおける最新動向
 - 我が国における先行事例情報 等
- シュタットベルケに関心を有する自治体等の相互交流を通じた課題の共有と解決策の共同検討

2. 日本版シュタットベルケの設立支援活動(→将来的には、事業活動支援)

- 講習会、個別コンサルティング等を通じた、電力小売り事業のための事業計画策定支援
- 事業計画に基づく、電力小売りサービス提供体制の構築支援
- 地域独自の課題に対する付加価値サービスを含めた、事業全体計画の策定支援

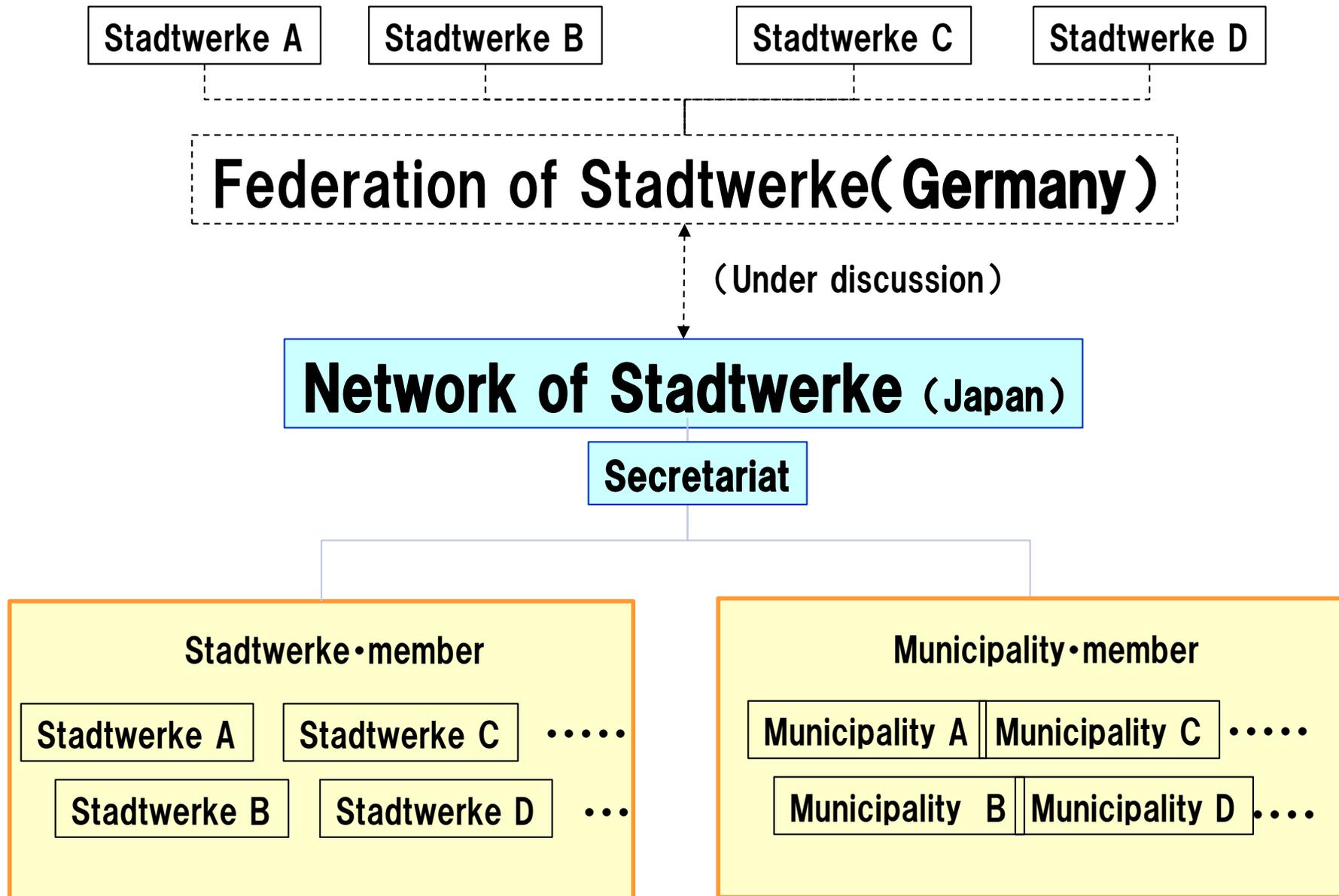
3. 共同活動の推進

- 一自治体、一機関では対応が難しい公的プロジェクト等に共同して応募し、採択後は共同活動を推進
- 広域連携活動の推進

4. 日本版シュタットベルケに関する情報発信活動

- 認知度向上に向けたワークショップ、シンポジウム等の開催
- 関連団体との交流・連携の促進
- ドイツ等との国際交流の推進

Structure of Network of Japanese Stadtwerke



参考事例 シュタットベルケ・オスナブリュックの取組み

～収益事業と不採算事業の組合せにより地域貢献(ソーシャルビジネス)～

- オスナブリュック市が100%出資する都市公社は、電力小売事業に加え、地域の課題となっていた公共交通サービス、公共温水プールの運営を取込み。
- 電力小売事業等の黒字を公共交通サービス等に投入しつつ、地域に貢献。
- 一方で、都市公社全体としては収益を確保しつつ、地域雇用にも貢献(900名以上)。

Power
sales: 1,100 GWh/a
house connections: 37,113
length of grid: 2,323 km

Natural Gas
sales: 2,900 GWh/a
house connections: 30,138
length of grid: 807 km

District Heating
sales: 56 GWh/a
house connections: 305
length of grid: 9 km

Drinking-water
sales: 10,0 Mio. m³/a
house connections: 32,339
length of grid: 635 km

Sewage treatment
Sewage: 21,5 Mio. m³/a
Plants: 3

Public transport
Busses: 156
Passengers: 36,100,000 /a



Public-swimming-pools
Pools: 3
Visitors: 1,250,000 /a



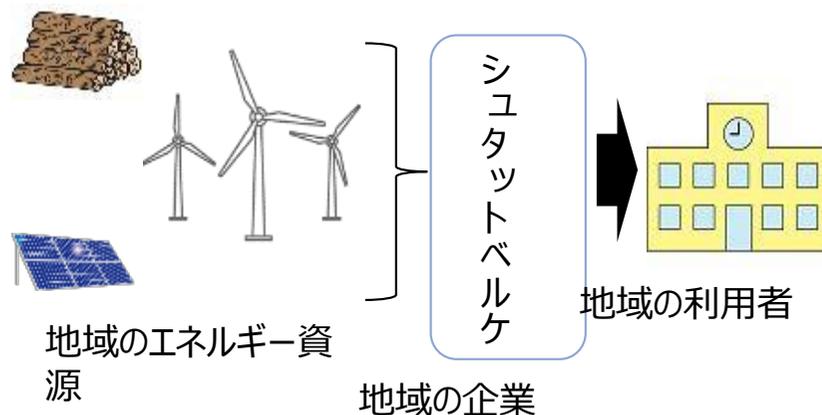
(参考) シュタットベルケの地域にとっての意義 ①

(日本版) シュタットベルケ

2つの役割

地域の資源であるエネルギーを地域の企業を中心に活用するビジネスを通じて、地域で雇用を生み出す

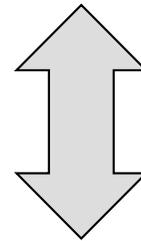
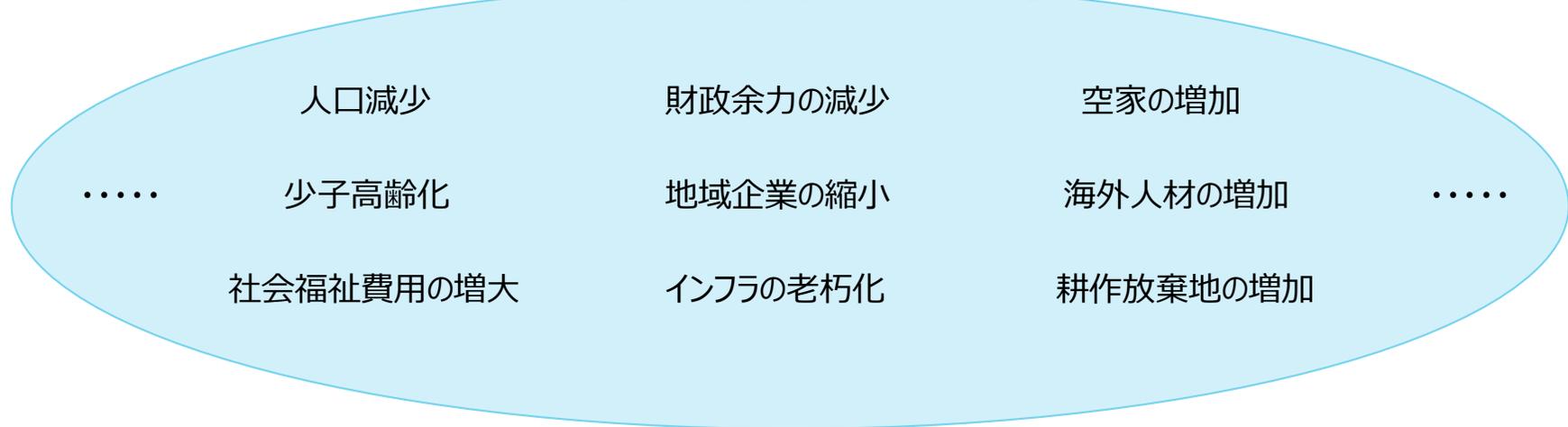
エネルギービジネスを中心に収益を確保し、同収益を用いて、地域が抱える課題を解決するサービスを提供する



次ページ参照

(参考) 注目されるソーシャルビジネス

地域が直面するさまざまな課題



ソーシャルビジネス (地域の課題をビジネスの手法で解決)

ビジネスの手法を取入れた経済的に持続可能な仕組み

+

社会的意義は高いが、単独では事業採算のとりにくいサービス

(参考) ソーシャルビジネスの担い手としての都市公社

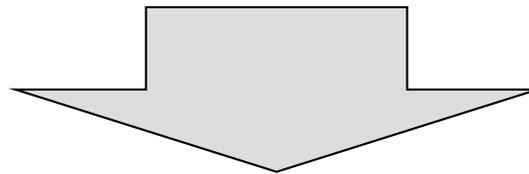
- ◆ シュタットベルケは、エネルギービジネスにより一定の収益を確保し、同収益を活用して、地域の抱える課題（不採算のため維持が困難な公共交通、公共温水プール等の運営等）の解決に貢献

電力小売り・省エネサービス・ガス供給等のエネルギービジネスによる経済的に持続可能な仕組み

+

公共交通、公共温水プール等の社会的意義は高いが、単独では事業採算のとりにくいサービス

事業全体としては収益を確保して、持続可能



シュタットベルケは、エネルギービジネスを基調としたソーシャルビジネスとしての側面を有するのでは？